

宮里老人クラブ新聞 みやわし

2026
8月
第34号

会長：前門 政子
題字：喜屋武磯江
編集：山下 博實

90歳、まだまだ現役 第51回沖縄市老人クラブ大会

7月30日、「誰もが健康で活躍できる生涯現役社会」の実現を目指す沖縄市老人クラブ大会

子さん、島袋春子さん、池原幸子さん、宮城悦子さんの4名が受賞。会場では松田さんと島袋さん、新里八十秀会長から感謝状が手渡され、晴れやかな

笑顔に大きな拍手が送られました。

今回、感謝状を受けた90歳の皆さんはちょうど100名。どんなに若々しく、生き生きとした姿が印象的でした。受賞者代表の浦崎清子さんは、「まだまだこれから。体力の続く限り老人クラブで活動し、地域に貢献したい」と力強くあいさつされ、その言葉に会場から大きな共感の拍手が送られました。



宮城悦子さん 池原幸子さん 島袋春子さん 松田政子さん

ラブ大会が、市農研研修センターで開かれました。大会では、老人クラブの発展に尽くした個人や団体の表彰に加え、90歳を迎えられた方々への感謝状の贈呈も行われました。

みやわし会からは松田政

祝福に駆け付けた皆さん【市農研研修センター】



役員会だより

役員会開催：7月15日(水) 14:00～15:30

議長：前門政子会長 出席：役員6名

議題

1. 沖縄市老人クラブ大会 7/30(木)市農研ホール 功労賞4名 応援：7名
安全のため原則、自己またはタクシーでの移動とします
2. しまくとぅば大会 7/23(木) 10:00 開始
3. バザー・展示会
自治会行事と重複のため延期します
4. 定例会のゲーム催し
原則として第3(木)に実施
5. 老人会 500円保険の件

8月の予定

定例会：毎週(木)10:00～公民館2階

8/6, 8/13, 8/20, 8/27 百歳体操と定例会

役員会：

8/19(水)14:00～ 公民館2階

宮里公園：

熱中症予防のため8月は活動を休止します

うちなーぐちで語やびら



主催の新屋千代子さん

桃太郎



屋宜喜美子さん



仲宗根明美さん



喜屋武磯江さん



右から中村友恵さん
山城ハツ子・康徳夫妻



塩川初江さん



仲宗根百合子さん



比嘉幸子さん

「むかし、むかし、あるところに……。子ども頃に親しんだ「桃太郎」。新屋千代子さんの企画で、それぞれのしまくとぅばで語り合う交流

「むかし、むかし、あるところに……。子ども頃に親しんだ「桃太郎」。新屋千代子さんの企画で、それぞれのしまくとぅばで語り合う交流を浮かべながら、幼い日の思い出やふるさに思いを重ねていました。

前門政子会長のあいさつで始まり、内間秀太郎さんの三線「ジントヨー」が会場を和ませ、比嘉ミヨ子さんの閉会のあいさつで交流会は幕を閉じました。毎年趣向を凝らしていたく新屋さん、来年の企画もまた楽しみです。

会が、7月23日、宮里公民館で開かれました。

弁士は10名。仲宗根明美さん(首里)、屋宜喜美子さん(登川)、仲宗根百合子さん(屋慶名)、比嘉幸子さん(瀬底島)、喜屋武磯江さん(本部)、中村友恵さんと山城康徳・ハツ子夫妻(平安座)、塩川初江さん(宮古島)、そして山下が鹿児島弁で「桃太郎」を披露しました。

思い出いば



6歳の私が見た戦争

浜田洋子



私は戦争の時、6歳の幼稚園生で

した。今日は、その頃の記憶を皆さんにお話したいと思います。

ある日、妹と木登りをして遊んでいると、突然、空襲警報が鳴り響きました。サイレンやドラ鐘の音が町中に響き、人々は右往左往して走り回っていました。母は防空頭巾を持って迎えに来て、私たちは着の身着のままで墓へ逃げました。地上にはジープやトラックが並び、銃を持った兵隊が歩いていました。空で

は花火のような光と爆発音が続き、破片がヒューヒューと飛び交います。私たちは見つからないよう川へ飛び込み、土手の草に踏みながら濡れで逃げました。

墓にたどり着いた時には震えが止まらず、足はガクガク、唇は真つ黒になつていました。母は私たちを両脇に抱き寄せ、必死に温めてくれました。食べ物もありません。兄が小芋やミジンム、焼き米



を探してきて、水は川の水を飲みました。そんな暮らしが何日も続きました。ある日、兵隊が墓に近づいて来ましたが、母は「見つかったら殺される」と覚悟したのでしよう。私たちの上に覆いかぶさり、「シーナマズンドウ、ウドルクナヨウ」と静かに言いました。しばらくすると、「戦争は終わつた。そこにいる人は

出てきなさい」と何度も呼びかける声が聞こえました。兄が木の枝にタオルを巻いて掲げ、私たちは一列になつて墓から出ました。前後を銃を持った兵隊に囲まれて歩く途中、血を流して倒れている人たちの姿を見て、子ども心にも恐ろしく、泣きながら歩いたことを覚えています。

収容所ではガムやチョコレートが渡されましたが、母は「毒が入っているかもしれないから食べてはいけません」と言いました。

やがて戦争は終わり、私は一年生になりました。しかし、今のような新しい服やランドセルはありません。学校はテントや墓を利用した教室で、黒板の代わり



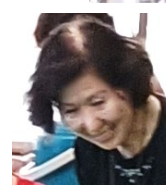
「沖縄タイムス」より

スカットボールで盛り上がる!



7月16日の定例会は30名ほどが参加。この日は、具志堅盛雄さん東江信雄さんの提案で、スカットボール大会に。スティックでボールを打ち、5メートル先のホールを狙います。

カメラは、放ったボールの行方を見守る真剣で楽しさあふれる皆さんの表情を捉えました。



立て、ノートは紙切れやセメント袋を使いました。鉛筆は竹筒に差し込み、机もありませんでした。履き物もなく、みんな裸足で通学しました。校舎は茅葺きやトタン造りで、雨漏りや台風のために父兄と子どもたちが協力して修理しました。運動場の砂も遠くの海から運びました。弁当は芋や味噌、塩だけ。

学校帰りには、ごみ捨て場で食べ物を探しました。そこで見つけた赤いリソゴや黄色いミカンの味と香りは、今でも忘れられません。



世界中の人たちが仲良く暮らし、皆さんの未来に平和が続くことを心から願っています。

テレビで戦争の続く国々の子どもたちを見るたびに、私は自分の幼い頃（浜田洋子さんが、5、6歳の子供たちに体験談として話された原稿を掲載させていただきます。）